

特色ある取組

愛知教育大学附属図書館では、2017年に2階全域を「動のエリア」と称し、グループ学修可能なアクティブラーニングスペースに改修した。これにより、学生、大学教員、現職職員が交流や議論を通じて知識的に刺激しあう、活発で自律的な学修を推奨している。

特に、入口の正面には「アイ♥スペース」という発表・イベントの場を設け、展示会のみならず、従来の図書館では難しかった、ピアノ演奏などの大きな音が出る発表を可能とした。

過去には、能楽部員による学生能実演や、学生の演奏会、演劇部の公演、職員によるマジックショーなども行っており、盛況を博している。また、このスペースは可動式の壁を採用しているため、イベントがない時期は、ラーニング commons として活用している。



学生によるランチコンサート



展示会

エリア内には、議論を交わすことも可能な「グループ学修エリア」をはじめ、教室を再現し、より実践的な指導力をみがく「模擬授業ルーム」、学校現場で主導的な役割をはたすICTスキルを育成する「メディア commons」、読み聞かせや朗読会を行える「キッズライブラリー」を設置し、学生たちが能動的に学修力を身に付けられる環境を整えた。



模擬授業ルーム



キッズライブラリー

取組による成果と今後期待する役割

こうした取組の効果により、

- ① 学生の学修力をより高いレベルへ引き上げる
 - ② 地域の方も集まりやすく、本学学生の成果発表を広く発信できる
- といった成果が得られた。

今、図書館には、従来にはなかった「アクティブラーニングの場」としての役割が求められている。

現状、主に学生の自由で実践的な学びを支援しており、先述のとおり成果発表の場として広く発信を行っているが、今後は、**知の交流拠点として、大学の研究成果の発表や、現職職員による講演会を開催し、「先人からの知」・「大学で生産された知」・「学校現場での知」の循環（生産→公開／保存→実践）を推進していきたい。**